

## 平成28年度第2回淀川区区政会議

### コミュニティ力向上部会

日 時：平成29年2月1日（水）

午後6時30分～午後8時32分

場 所：淀川区役所 5階会議室（504）

#### ○西政策企画課長

お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより淀川区区政会議コミュニティ力向上部会を始めさせていただきます。私は、本日の進行役を務めさせていただきます、淀川区役所政策企画課長の西と申します。よろしくお願いいたします。

まず、お手元の資料のほうの御確認をお願いいたします。

着座にて失礼させていただきます。

まず次第。配付の資料一覧。資料1、部会名簿と、その表裏になってます資料2の座席表。資料3、地域活動協議会の支援について。資料4、区政会議の運営について。資料5、区政会議の運営の基本となる事項に関する条例。資料6、淀川区区政会議運営要綱。あと、「よどマガ！」の2月号と「YODO-REPO」の34号。不足はございませんでしょうか。ありがとうございます。

なお、本日角本委員、牧委員におかれましては、御欠席とお伺いしております。また、西尾委員におかれましては、御到着がおくれられているようでございます。

ただいま、区政会議コミュニティ力向上部会委員8名中5名の方の御出席をいただいております。定足の2分の1以上の委員が出席でありますので、会議が有効に開催されていることを御報告申し上げます。

区役所の職員につきましては、お手元の座席表のほうで御確認いただきますようお願いいたします。

それでは、次第に沿いまして、議題に移らせていただきますが、今回は会議に先立ちまして、委員の皆様からあらかじめ、「コミュニティづくり等」に関する課題の中から、関心のあるテーマをお伺いをいたしました。

本日の会議では、皆様の関心が特に高かった、「地域活動協議会の支援」と「区政会議の運営」のこの2つのテーマを取り上げさせていただきます。事務局から改めてそれぞれの課題や現状につきまして、簡単に御説明させていただいた上で、委員の皆様から自由に御意見頂戴したいというふうに考えております。

部会は、区政会議の議論を効率的かつ効果的なものにするために、それぞれ所掌事項について意見交換を行う場として位置づけられています。この「コミュニティづくり力向上部会」で取り扱うのは、「コミュニティづくり、地域活動、にぎわいづくりに関する事項」というふうになっています。

少ない人数での会議でございます。よりテーマを深く掘り下げた意見交換をしていただくことも可能であるというふうに考えております。区役所への御意見、御質問だけでなく、この機会に他の委員の方々に伺いたいようなこともございましたら、遠慮なく御発言いただければと考えております。

会議の時間は2時間を見込んでおります。午後8時30分には終わってまいりたいと考えておりますので、何とぞ御協力いただきますようお願いをいたします。

ここからは、小澤議長に進行をお願いいたします。

#### ○小澤議長

今事務局から説明がありましたように、テーマを絞って議論したほうがいいということで、あらかじめどんなテーマを取り上げてほしいかという希望を募りまして、その中で今説明がありましたように、「地域活動協議会の支援」について、それと「区政会議の運営」についてと、時間がありましたら、そのほかの件についても取り上げてみたいと思います。

それでは、最初に、「地域活動協議会の支援」について、事務局の新井課長のほう

からお願いします。

## ○新井市民協働課長

皆様、こんばんは。市民協働課の新井です。ちょっとかけて説明させていただきます

A 4 横の資料 3 をごらんください。

では、地域活動協議会の支援について。現状。18 地域の地域活動協議会としての活動は 4 年目に入り、中間支援組織により地域特性に応じた支援を受け、様々な取組を行う地域が増えつつある。地域活動協議会の 12 月末現在の取組状況です。

企業・NPO・専門学校等との地域活動団体との協働事例が 10 件。地域活動協議会構成団体への企業・NPO・福祉施設等の参画地域が 7 地域。コミュニティ回収実施地域（累計）10 地域。民間助成金等活用事例が 8 事例ございます。

中間支援組織に対するアンケートとしまして、平成 28 年 3 月にとったアンケート結果では、課題やニーズを的確に把握してもらい、それにあった支援を受けることができている、60.6%。中間支援組織により、さまざまな団体が集まって地域活動や課題について話し合う事が活発になっている、59.7%となっています。それから、無作為抽出の区政モニターアンケート、28 年 2 月の分ですが、地域活動に参画しやすい環境が整っていると感じる方の割合が 36.9%。どちらともいえないが 23.5%。感じないが 32.2%。その他 7.4%となっております。地域が一体となった地域運営がされていると感じる方の割合が 22.1%。どちらとも言えないが 31.5%。感じないが 30.9%。その他が 15.4%となっております。

右のほうにいきまして、平成 28 年度の主な取組実績で 12 月末現在です。地域活動への参加促進。先ほどもありましたが、企業、専門学校、NPO との連携回数が 10 回。地域活動協議会の自律運営支援、地域公共人材の活用、1 地域。これは、社名運動運動で木川地域が講演会を行いました。このほかに 10 月にあったんですけど、同じ阪大の先生の森栗先生という教授を呼びまして、区役所で子どもの居場所づくり

講演会というのを開催いたしました。これは、ほぼ全地域の方が参加していただいたと思います。この講演会をきっかけに、各地域でこども宿題広場であるとか、こども宿題カフェのようなものが発足しまして、ちょっと事例としましては、新東三小小学校で生涯学習ルームを活用して宿題カフェが年末と年始に開催されました。そして、野中地域で宿題広場と称して、12月と1月に開催されました。また、北中島地域では、今月ですけど、2月15日と3月15日に、そういうこども宿題広場というものを開催する予定でございます。

それから、地域資源が循環する仕組みづくり。これ西課長でございます。

#### ○西政策企画課長

はい。改めまして、政策企画課長の西のほうから、地域資源が循環する仕組みづくりについて御説明申し上げます。

淀川区が率先して取り組んでまいりましたコミュニティ回収の実施地域についてでございます。平成27年度は4地域において実施されました。平成28年度ですが、一応この資料のつくりとして、12月末現在ということになっておりますので、12月現在で6地域。さらに、1月に1地域実施することが決まりまして、現在、28年度の合計7地域で実施されることになりました。合計11地域ということでございます。

具体的に申し上げますと、27年度は、野中、木川南、十三、東三国。28年度は、田川、三国、三津屋、神津、塚本、北中島、西中島、これらの地域で現在コミュニティ回収を実施していただいております。

その下のところに移りますが、CB・SB、コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスとかの事例検討ということでございます。平成27年度は、2つの事例について検討を行ってまいりました。さらにそれを引き継いで、28年度も1つの事例について検討してまいります。この1つの事例というのが、我々、その下にありますが、広報誌「よどマガ！」でございますけども、今までは全戸配付ということで、

我々ポスティングの業者のほうに、淀川区全戸のほうへ業務委託という形でやっているんですけども、29年度から一方的に、試行的に3つの地域で、地域課題等の解決するようなこととドッキングしたように、配付事業が委託ができないかということで、このことをプロポーザルを実施いたしまして、2つの地域におきまして、この広報紙の配付事業を応募いただきまして、そろそろ契約締結できる見込みとなっておりますので、それぞれ1つの事例が手続をしているところでございますと御報告申し上げます。

#### ○新井市民協働課長

続きまして、右下ですけど、平成29年度の主な具体的取組。地域課題解決に向け、地域公共人材を活用。地域活動協議会と企業、専門学校、NPO等の連携拡大。それから、コミュニティ回収新規取組、4地域。それから、新たな担い手獲得を目的とした自律的な地域活動を支援するための補助金活用というのをめざしております。

資料の説明は以上です。

#### ○西政策企画課長

今、西尾委員が到着されましたので、6名の委員の方の御参加となったようでございます。事務局からの資料説明、以上でございます。

#### ○小澤議長

本当にざくつとした説明で、抽象的なところもあるんですけど、今説明を受けた以外でも結構ですので、何か問題点ですかね。自分の地域はこういうことをやって非常に効果があった等、事例を挙げてもらうのも結構かと思います。

各地域活動協議会が、地域でどういう方向をめざしているのか、問題点も含めてお話しいただければありがたいと思います。まず最初に、左のほうから、久本さんお願いします。

#### ○久本委員

資料のですね。うちは改めて例年どおり会長のほうもさせていただいて、新しいそ

の取り組みは、目についたところからやってみますかというのがあって、それが区役所さんのほうからも説明があった形で、コミュニティ回収関係もさせてもらってます。あと、うちの地域の中のNPOの団体さんとも、何らかの形で活動していこうかと、そのほうが地域活動協議会、振興会、社協の団体等で、お金のなものつながりはできへんけど、人的な支援はしましょうという形のおつき合いはさせてもらってる形をとらせてもらってます。

今説明があったような形のものは、とりあえずは、うちとしてはさせていただけるようなところかな。ただ、見えないところでまたちょっと掘り下げたというたらおかしいですけど、地域の中でくすぶってたような問題点というのも若干出てきているようなところがあって、改めてみんなで見詰め直そうかと、ちょっとワークショップ的なことをやっていって、みんなで勉強会しようかというものはあります。

#### ○小澤議長

十三地域のほうは結構、先取りした形でどんどん進めていってるような印象が、私はあるんですけど、特にNPO法人との連携が非常にうまくいっているという印象をもっております。新しいノウハウを取り入れられて、地域の活動にうまく活かしておられます。あとは、今言われたように、地域の理解度がなかなかついてこないという現実があります。そこが多分苦労されていると思う。まあそれはどこの地域でも一緒だと思うんですけど。

#### ○久本委員

同じやと思います。

#### ○小澤議長

地域の周知については、どこの地域でも問題はある話で、後ほどお話ししていただいても結構だと思います。

そうしたら、田中さんのほうから。

#### ○田中委員

はい。北中島は、皆さん御存知のように、北中島まつりを始めたのがいい機会になって、もう4回終わって、専門学校の人に来ていただいてすることによって、本当に毎年地域が一丸となりつつあると思ってます。専門学校の方もよくしてくださるし、敬老会にも専門学校の人に来てくださって、お年寄りの方にも喜ばれている。よど☆エコ回収も去年の11月から始めました。

今度は宿題広場ということで、できたら地域で子どもたちを守って育てようじゃないかという大きな目標をもっていこうかなと思ってのんです。だから、2月15日と3月15日、第3水曜日を目標にさせていただこうと思ってるんですが、何分初めてなもので、また後から小澤会長にいろいろと教えていただきたいなと思って、経験されてると思いますので。

**○小澤議長**

何か問題点はないですか。

**○田中委員**

大きな問題は地域ではないですけど、よど☆エコ回収の利益をどのようにするかというところでは、まだちょっとしっかりしてない部分があるんですけど、でも個人的にはやっぱり町会へ何%返して、残りを防災のことに使いたいというのが始めの目的だったんですけど、やはり皆さんに協力していただこうと思えば、町会に何らかの形で返すほうがいいんじゃないかというふうに、今提案しております。

**○小澤議長**

いずれにしても、貴重な収入ですので、地域でいろんな形で活かしていったら、非常にプラスになると思います。

北中島地域では。専門学校が非常に協力されて、いい形で連携されておられます。北中島のまつりでも、ブースまでもったり、お手伝いしたり、いろんな形でかかわっておられます。

**○田中委員**

だから、北中島はありがたいですね。宿題広場にも来ていただくことになってるんです。それから、高齢者食事サービスのときにも来ていただいているし、すごくいい関係に、今させていただいております。

**○小澤議長**

私の町会にもパナソニックの独身寮があり、町会とはいろいろ連携しております。宿題広場においても、エリートの多い寮ですので寮生に協力していただいて、また寮生には外国人もおられるので、生の英語に触れる体験も宿題広場の中に取り入れていけたらと考えておりますので、またいろいろ教えていただきましたらありがたいと思います。よろしく申し上げます。

**○田中委員**

こちらのほうこそ、よろしくお願ひいたします。

**○小澤議長**

そうしたら、続きまして、浅野さん。

**○浅野委員**

はい。新東三国の浅野です。日が浅いもので、何を発言していいのかわからないんですけども、新東三国の地活協の行事としまして、新たに昨年度から小学生を対象としてるハロウィン行事。1年目、昨年度は子どもに仮装させて、町内会の家を回っていただいてお菓子をもらおうと、そういう趣向でいったんですけども、今年度、ことしの10月から11月は専門学生ですね。美容のほうの専門学生に来ていただいて、顔のペイントをしていただいたりと、プラス仮装ということで、もう家は回らずに小学校の体育館でファッションショーですね。大人にも子どもにも非常に好評で、来年度も継続したいと、そうっております。

以上ぐらいしかないんですけどね。

**○小澤議長**

地活協の組織としてはうまく定着していますか。



○浅野委員

会長さんも頑張って、ちゃんとやってくれてはります。

○小澤議長

ありがとうございます。

続きまして、板谷さんよろしく申し上げます。

○板谷委員

まず地域活動協議会東三国として、組織がうまく動いてるかということについては、浸透して機能してるというふうに考えてます。当初はいろいろと振興会との関係とか、社協との関係とか、その関係性がわからなくていろいろぎくしゃくしてましたけど、地域活動協議会のもとに各組織があるという位置づけをしています。地活協というのも、地域としては浸透して問題ないというふうに考えてます。

それから、地活協としての活動ですけども、各組織が活動してるのもありますけど、地活協としての活動という意味では、ここに例示挙げてもらってますように、例えば専門学校との連携ということについては、東三国に歯科技工士学校と歯科何とか学校、2つあるんですけど、そこから毎年運動会、敬老会、それから音楽祭というこの3年ほど、3回目なんですけどやってるんですけど、そういうものに皆参加してくれて、準備であるとか後片づけであるとか、そういうことをやってくれて、学校の先生も地活協のほうに参加していただいています。

それから、コミュニティ回収の件につきましては、全然問題なく機能している。中身として、従来の子供会、あるいは町会がやってる分もあるわけですけど、それはそれでやってもらって、それぞれの形で会計をもってやってもらっている、毎週木曜日のコミュニティ回収については、各町会に分担して地活協としての持ち分ももらうというような格好でやってまして、仕組みとしてはもううまく流れてるというふうに思っております。

それから、課題の1つは、やっぱり組織が大きく絡んで、お金の出し入れなり、情

報提供なり、いろいろ連絡事項をやってもらう、事務局の人間が非常に必要だというふうに考えてまして、去年は社協と契約関係を結んで、人に来てもらってやったんですけども、やっぱりなかなか地域のやってることとなじめない部分があって、もうリタイヤしてしまっただけで、後がまがないんです。やっぱり活性化してというか、やろうとすると、やっぱりできる人が1人で頑張るという世界ではなくて、組織化した形にもっていききたいなというところを何かバックアップできないかなというのが、今地活協としてはかなり意識をもっているというところなんです。

とりあえずそういうことで。

○小澤議長

はい。ありがとうございます。地活協の組織として確立していく必要は当然あると思います。

○西尾委員

意見交換会みたいなのあるんじゃないですか。

○板谷委員

すいません。議長。ちょっと追加で言わせてください。

○小澤議長

はい。

○板谷委員

今の話なんですけど、地域活動協議会について、その淀川としての組織がない。各団体は淀川区協議会等の組織をもっているが、地域活動協議会は各地区単独の形で、組織としての連携というか情報交換というか、そういう形のものがないのは、機能的にいろいろ不都合があるんじゃないかという意見が東三国地活協の中でも出ていましたので報告しておきます。

○小澤議長

いずれにしても、ほかの団体には、区の組織があるのに、地活協には区の組織がな

いということで、なかなか理解を得にくいというのがあることは確かです。

○新井市民協働課長

社協は社協さんとして運営していて、連合振興町会長会議との意見交換会というのを毎月開かせていただいております。

○小澤議長

それは、ありますね。

○新井市民協働課長

地域活動協議会の会長会は年3回ぐらい。あとはブロック会で意見を交換を深めるという感じで、それで以前は会長会ですと、お話しになる方が決まっていて、その方だけがちょっと一方的にお話しされて、あんまり意見が活性化しなかったのが、昨年度からブロック別の会議で、6地域、7地域ぐらいですと、みんなそれぞれ近隣同士の近い地域なので、例えば一緒に防災訓練しましょうとか、そんなふうに話が活発になりましたので、ブロック会議のほうに少し重きを置いています。会長が18人そろいますと、しゃべる方は一方的に長くお話しになる。ほかの方はちょっと遠慮されてるみたいなので、2時間の会議が余りちょっと活性化しなかったんです。ただ年3回、年度当初と、途中と、年度末はブロック会議の報告も踏まえて、一応意見交換会は開いてるんですけども。

○小澤議長

いや、我々がその意見を聞いたり、区役所がもの言ったりする場はあるんですけど、例えば組織として何かを提言したり、決めていくという作業ができないんです。いわゆる淀川地活協としての組織というのはいないわけですよ。

○新井市民協働課長

ないですね。

○小澤議長

そうでしょ。だから、淀川地活協という組織は存在しないわけです。

### ○新井市民協働課長

地域によっては、もうすごく特色がありまして、本当に連合振興町会長の方が、町会長と一緒に会合しながら、そのひと月の報告をしたり、区役所の報告をされたりいうことで、一緒に兼ねてるような地域もございますし、それぞれ地域によって、すごくちょっとカラーが違う感じはあります。

### ○西尾委員

それぞれ地域性があるじゃないですか。うちなんかやったら、全然そういうことでもめたりしないから。はっきり言わせてもらおうと、別に会長さんたちがやるんじゃないくて、実際に動く者は違います。だから、その人たちがブロック会議でいろいろ話し合っって、これやったらうちもしようとか、全然今で問題ないと思うけど。偉い人が話聞いてきてくれはっても、その話が私たち事務方とか動く者にしては、全然ええということもありますからね。それだと、1番動いてる者が話し合っって、話を聞いてきてとか、わからへんかったらその人に電話をして、これどういうふうになってんのって聞いたほうが、うまくいくと思うんですけどね。変えようと思って地域活動協議会ができたわけじゃないですか。だから、そういうふうに変わっっていけばいいかなと思いますけどね。

### ○新井市民協働課長

ブロック会議でも、こういうテーマなので、この実務の方を参加して入っってくださいと言っって、会計とか広報とか防災とか、それで余計その実務をやってる方がより詳しいので、意見が活発になってるというのが、今ちょっとそういう傾向があるんです。会長さんは多分細かいところまではあんまり御存じない方もいらっっしゃるので。

### ○田中委員

ブロック会議はすごくいいと思うんですよ。だから、今多分東三国さんおっしゃってるのは、社協も淀川区社会福祉協議会。町会も淀川区連合町会長連絡会がある。そうしたら、淀川区地域活動協議会という名のものが、1つの固まりとして、これはほ

かからもよく聞くんですけど、何で地活協は淀川区にないねんって、こう聞かれるんです。社協とか連長さんは、その形があるじゃないですか。そういう意味で、地域活動協議会という1つの淀川区の会があってもいいんじゃないんですか。

#### ○新井市民協働課長

3月14日に地域活動協議会の会長会議をもう一回、意見交換会としてやりますので、何でしたらそのときに、会長さんにもこういう御意見出ましたけどどうですかということもお伺いしてみます。ほかの会長さんの御意見も聞きながら、例えば兼任してる方ですと、社協の日程で毎月集合する、連長会の日程でまた毎月集合する、そして、仮に地域活動協議会で仮に毎月だったら、またそれで集合するといったら、物すごくお忙しいことにもなってしまいますので。

#### ○田中委員

その点は、十分ありますね。

#### ○新井市民協働課長

連合振興町会長会議は、もう60年の歴史がありますし、もともとそのできた経緯も違いますし、社協の会長とも、またちょっと地域の福祉という目的がまた違いますし、連合振興町会のほうは、もと日赤の組織から成り立ってますし、そして、地域活動協議会できて4年目ですので、どれを集約するというのも、地域によって本当にカラーがあります。どれを何か、区役所からどうこうはちょっとなかなかしにくいところはあります。御意見は伺いますけど、3月の地活協会会長会議で。

#### ○小澤議長

いやいや、別にどこでどうのこうのということじゃなしに、自由に話し合いしてるわけやから。

#### ○久本委員

小澤さんが言いはるのが、淀川区としての地域活動協議会というのをつくるのか、つくらへんのか聞いてはんねん。社協もそうやし、振興町会も成り立ちがみんな違う

から。この地域活動協議会って形出してるの、一番最初に地域の理由がなんやったかっていったら、お金を出す窓口やったやん。その説明できないと、ぐだぐだやん。成り立ってからのことが全部変わってきてるやんか。区政会議も、地活協の会長の推薦になったわけでしょ。振興会とか地域代表とか書いてないやん。単一の、地域に任してるだけの組織で置くんか、形変わって、将来的になくなる会議なのか。うちら地域なんか、みんなそこまで見えてない。そやから、最初に地活協という組織をつくって、今までもらってたお金を一括補助金出しますよ。自由に使えるお金を出すんですよ。来てんは、あんたらやんか。これをふたあけてみたら制約はあるやろ。いう話になって、すったもんだしたのも地活協やん。

○田中委員

でも、地域活動協議会というのは、全部ひっくるめて地域活動協議会ですよ。

○久本委員

そうです。うちもそうなんです。せやけど、今生まれたときから、今死ぬ人までみんなここに入ってるねんよ。

○田中委員

そうです。それ全部入ってます。

○小澤議長

現実には地域差があって、複雑にからんでるんやね。振興会は振興会の仕事なり責任があり、社協は社協であるんですよ。そらもう十分わかってる。ただ、そういういろんなぎくしゃくしたことを、この地域活動協議会で何とか整理できへんかというのが、私自身が思ってたことです。必ずすべきと思ったのは一括補助金です。社協が出したり、振興会が出したり、各行事ごとでお金を集めたり、もうばらばらなんでね。それは地域性があるといいかもしれませんが、やっぱり地域をまとめていくには一括補助金にすべきだと思います。市のほうも一括補助金と言いながら完全になってないでしょ。はぐぐみネットワークも、生涯学習も外れてる。

○久本委員

学校体育施設開放も。

○小澤議長

学校体育施設開放も外れてる。だから、その部分については、地活協であろうが、社協であろうが、振興会であろうが、見えないし、物言いにくい部分があります。

○久本委員

それがね。西淀川区は一括で出てるんですよ。なんで淀川区は。

○新井市民協働課長

ちょっと西淀川区のことは。ごめんなさい。

○久本委員

そうやねん。そやから、区の単位やからわからへんねんけど、今そないして、その淀川区では別になってるけど、西淀川区は一括で出てるので、ほな一括、さっきも言ってた補助金は、何でそないして区単位で違うの。それは区長さんの判断なん。市のやり方なん。

○小澤議長

確認せんと、ちょっとわかりにくいな。それは。

○西尾委員

例えば、私とこなんかだと、神津と新北野の地域で1つの小学校じゃないですか。そうすると、そのはぐぐみネットワークとか生涯学習とか、みんな神津さんに入ってしまったら、ほんまにお金が出てくるかどうか、生涯学習とか、私は生涯学習やってるから思うんですけど、それとかはぐぐみネットワークとかにほんまにお金がそんなだけもらえる予定のものがもらえるかどうかとか、すごい不安。だから、今はばらばらでもらってることがありがたいと思ってます。

○久本委員

ただ、そのばらばらでもろてる弊害がね。言うたら、地活協の補助金もそうやけど、

大阪市からもうてるのを1つの事業に2つ入れられへんのですよ。例えば、はぐぐみネットワークが何かやっています、生涯学習やっていますって言うて、それがはぐぐみネットワークさん、生涯学習さんもそのもうてる補助金を使ってやっていると、地活協がお金入れたら入れられへんわけよ。今生涯学習さんは、5万何ぼでしたかね。はぐぐみネットワークでも10何万でした。学校体育施設開放が11万やったかな。3つの事業足したって、30万ほどのお金ですけどね。だから、それを各団体がもらってるがために、逆に地域が支援できへんやんと、学校行事に対してというのが、うち問題出てるんですよ。それやったら、もうもらわんとこかって言うたんよ。うちは。それもうその補助金なくしてしまうかって言うたんや。もらわへんねやったら、地活協から、例えば50万もうてくれと言われて、じゃあ地活協で諮ったら買えるんやろという話。

○小澤議長

だから、その辺については、地域が全く把握できないんですよ。逆に。

○久本委員

そうそう。そういうことなんですよ。

○小澤議長

独自の活動しはるから。

○久本委員

せやけど、やっちはるそのはぐぐみネットワークさんとかは、そういう事情わからないでしょうと。

○小澤議長

はぐぐみネットワークの主な目的は、広報であり、新聞の発行だと思います。地域としてはもうちょっとすっきりした形にし、そしてその広報も、もっと整理されるべきやと思う。地域でははぐぐみネットワークはあるし、PTA新聞もあるし、子ども会新聞もある。そのうえ、うちは地域の新聞もあるしで、そんな幾つもつくるのでは



なく、それを1本化すれば、もっといい広報紙ができると思うけど、その辺も地活協の中で議論していったらいいん違うかなと、私は思います。

○田中委員

本当に地域によって随分違うので、北中島はおかげさまで全部入ってますからね。全部把握させていただいてます。もう全部。北中島の場合は、本当に地活協がやっていただいたおかげでいろんな活動ができてるから、申しわけないけど、私のところはごくよかったと思ってます。やっぱり確かに今いろいろお聞きすると、地域によって随分いろんなことが違うと思うんですけどね。だから、私たちは把握させてもらってます。はぐぐみネットワークも全部。生涯学習も。どのぐらいもらって、どうしてるかっていうこともわかってるし。だから、本当に地域によって違うから、一概にはいとは言われなけれど。

○小澤議長

地域から、お金がいてないから報告する義務がないんですね。逆に。会計報告なんか見たことないですよ。

○田中委員

私はそこへ入ってるから、わかるんかも。

○小澤議長

たまたまメンバーでおられるから。地活協には、多分出ててこないし。

○久本委員

せやけど、地域の人はそのわからないと思います。

○田中委員

ああ、そうですね。地域の人それもわからないかもしれないですね。

○久本委員

ただ、地活協でやってて、お金の問題だけでそこに手は入れられへんけども、実際うちはそのはぐぐみネットワークと生涯学習と学校体育施設開放に、顧問という形で

小学校の先生と女性部長さん入ってもうてるんですよ。あと、その役員さんの中には、地活協の団体さんも入ってもらって、運営は見ていきますよ。みんなでやりましょうと。ただ、補助金もろってない枠で振興会から出されへんか言うて話しに行ったとき、出せんこともないんですよ。けど、それをしてしまうと、自由に使えるお金と補助金の規制のかかっている部分、誰がくくるねんって、一度問題あった。もうあかん言うて。

#### ○小澤議長

なかなかね。人が行って把握はできるんやけど、組織として義務がないもんやから、なかなかね。組織としての把握が難しい状況にあるので、それを多少何かシミュレーションしながら、やっぱり地域の組織というのは、誰がやってもうまくいくような形にしていく必要があるんで、その辺はまた議論をしてどんどん深めていって、いい方向に各地域が努力していけばいいのかなと思います。ちょっと議論が紛糾して長かったんですけど、まだ全部行き渡ってませんので、西尾さんよろしくをお願いします。

#### ○西尾委員

はい。うちはですね。組織的にその振興会さんとか、社協さんとか、そういうのもめることは一切ありませんが、ただ年齢層が皆さんの役員さんが高くなってますので、ちょっと若返らそうと今しているところで、それから、地活協のほうでマッチングファンドというのをもらって、ちょっと本当に若い保護者の方を、ちょっと役員じゃないけど、スタッフとして入れることができたことがすごくよかったかなって今思ってますね。どんどん変わっていってもらわなきゃいけないし、いつまでもお年を召した方がやっておられるというのもおかしいと思うので、女性部のほうはきっちりもう定年というのは75歳って決めてるんですけど、男性方のほうはそれがありませんから、やっぱりお年召した町会長さんたちだと、俺らが今までやってきたものを何でもそんなことを言うねんとか、よく言われれますけど、でもお話はさせてもらってます。どんどん変えようとしてます。今。それで、ぎくしゃくすることもありますけど、まあそれも過渡期やから仕方がないかなと思ってやっています。だから、まあうまく

いってるのではないかなと、少しずつ地活協というのや、いろんな組織がひつついてきたので、皆さんの心の中にも根づいてきたと思いますので、まだまだこれからだと思っています。

以上です。

#### ○小澤議長

はい、ありがとうございます。

私の地域も決してもめてるわけじゃありません。話し合いながら、どちらかと言ったら、先行的に進んで、何事も進めていっております。今西尾さんが言われたように、将来に向けて世代交代を念頭に置く必要があるので、野中の場合も地活協で定年制をひいております。それは、あくまで地活協だけであって、町会とかには、もの言うていく立場じゃありません。ただ社協はあて職で、地活協の役員がそのまま社協の役員に就任することになっているので、地活協の役員が変われば社協の役員も変わるということになります。

地域としては、地活協が窓口になり全てを把握して、町会と両輪で、町会にはお金を集めていただき、その出資金を使って運営しております。しかし、これからは区役所が言うてるように、NPO等に移行し、自主独立というんですか、地域として自主運営してほしいという意向もあるようですし、その意味で、コミュニティ回収もできるだけ速やかに取り入れて、その他、公園の清掃とか放置自転車の対策も含めて、また区役所が担っている事業を地域で受託して、結果地域にお金が流れて、それによって地域運営ができていくということも、徐々に模索していかなければならないと思っております。

それと、地域には定年退職して、趣味とか現役のときにいろいろやってはった男の人もたくさんおられます。それが我々見えないので、その情報を集めて、その人たちのキャリアを活かすということができればと思うんですが、残念ながら、我々それはわからないんですよ。その人が退職して家におられるのはわかるんですけど、何をし

てはって、どこの会社におられたということはわかりません。そういう情報が集められたら、男の人って、自分のやってきたこと、得意なことはすつとのってくれるんですけど、以外のことやったら余り関わりません。その人のキャリアがわかってれば話ももっていきやすいので、そういう情報をいかに集めて集約していくか区役所と連携していければと思います。新しい人材確保のために。

各地域の地域活動協議会が、前を向いてやっておられるという印象なんですけど、これから先どう向いていくか方向づけることが、区役所としても必要なことだと思います。最終的にどういう地域活動協議会がいいのか、また、どういう地域であるべきなのかということ、ある程度イメージできるような形を、これから示していく必要があると思いますので、またその辺のところよろしくお願ひしたいと思います。

#### ○板谷委員

ちょっと2点ほどよろしいですか。

#### ○小澤議長

はい。

#### ○板谷委員

1つは、ちょっと地活協との支援の関係とはずれるかもしれませんが、いきいき学級なんですけど、行ってる子の話聞いてると、やっぱり先生側になってくれる人を集めるのに非常に苦慮してるみたいでして、委託してる会社が集める話ですけど、任せっ放しということじゃなくて、若い人が必要やいう話ありましたけど、学校、大学なんか積極的に、PRしていくとか、求人広告じゃないですけど、そんなことをして来てもらえるようなやり方ってないのかなと、まあちょっとアイデアだけの話ですけど考えたところです。

それと、これは質問ですけど、29年の広報紙配付業務委託事業というのがあるようなんですけども、これは2つの地域が契約を結ぶようなんですけど、具体的にどういう形でやって、どれぐらい地活協にマージンがくるのか。2地域というのがどこな

のか教えてください。

○西政策企画課長

地域は、三津屋、十三。この2つの地域です。

さっきの説明にも申し上げました、今までこの「よどマガ！」配付、これですね。ポスティング事業者に委託して、単純にそれぞれ各家庭のほうへ配布するだけの事業で今までやっておりました。今、全戸のほうに配らせていただいておりますけども、地域もいろいろ、例えば見守りであるとか、さまざまな課題も抱えておられるであろうから、見守りとかそういった地域課題解決とポスティング、それをセットにして、何か地域でそういった活動に結びつかないかということで、29年度ですね。3つの地域をもうモデル的に、ちょっと事業者さんを公募させていただきます。そのうち十三地域と三津屋地域が契約結んだと。

○板谷委員

地活協が契約したわけ。

○西政策企画課長

地活協と契約。

○板谷委員

3つの地域だけに限ってということですか。

○西政策企画課長

というか、あれ公募なので、ホームページなんかで。

○板谷委員

東三国もホームページ見てたらわかるという話やったんですか。

○西政策企画課長

ただ、東三国地域については、今回入ってなかった。今回、モデル地域的にやりました。それは、どういうことで選ばれたかといいますと、それぞれ地域ごとにその世帯数がありますので、上位の1番多いところの世帯数の真ん中辺で、真ん中辺の世帯

数の真ん中で、少ないところの。

それで3つにわけたんですね。その中で当たったところがある。三津屋、十三。もう一つは具体的にいうと、地域はとられなかったんですけど、三国さん。この3つに我々絞らせていただいて、公募したと。それぞれ地活協さんだけでなく、そういった業者、ポスティングの業者のほうね。我々のその応募のほうには来られました。それぞれプロポーザルの形で、選定委員の審議の結果、十三さんと三津屋さんは地域のほうでとられた。

○板谷委員

民間も来たけども、地活協が落札したということですか。

○西政策企画課長

そうです。

○板谷委員

落札した、契約したんですか。幾らぐらい。

○西政策企画課長

今ちょっと、数字はちょっともってない。

○板谷委員

1枚幾らとか、そういう話なんですか。

○西政策企画課長

そうです。1枚、それ今ちょっと、申しわけない。数字をもってくるの、ちょっと失念してました。

○板谷委員

わかりました。見守り活動と、ペアということなんですか。

○西政策企画課長

いや、こっちが限定するわけじゃないんですけども、そういった地域課題解決と何かセットにして提案してくれないかという形で、公募したわけなんです。それぞれ地

域なり、事業者さんがおられる。訪問のほうへ。

○板谷委員

そうすると、地域課題を提出して、だからこういう課題でやってるんだから、実態としてこうしましたという結果も示さんといけないことなんですか。

○西政策企画課長

最後はそうです。

○板谷委員

報告書みたいなもので提出する必要があるんですか。

○西政策企画課長

一応、精算報告みたいなのはもらうことになろうかと思うんですけど。

○板谷委員

契約書に、それは、具体的に書いてあるわけですね。

○西政策企画課長

そうですね。ちょっと今、その契約書も仕様書もちょっと手元にないので、具体的に何書いてあるのか、思い出せません。すみません。

○板谷委員

はい。わかりました。

○西政策企画課長

それやったら、精算報告見て。

○小澤議長

委託事業なんで、必ず報告書を出す必要があります。いずれにしても、インターネット上での情報なので、見る人、見ない人がいるのが現状で、もうちょっと親切な私たちで情報を流す必要があると思います。

○板谷委員

モデル事業として、3つの地域でやったという話ですね。

### ○西政策企画課長

今後そういった地域もふやすかどうか、ちょっと来年度やっていただくところの様子を見ながら、まだちょっと初めての試みです。今までそういったポスティングの専門の事業者だけの委託でしか経験なかったんですが、初めての経験になります。また、様子も見させていただきたいなと思います。

### ○小澤議長

これも地域が事業委託を受けていく上での1つの取っかかりですので、どんどん進めていっていただいて、このほかにも地域に委託したらええ事業って多くあると思うので、その辺を模索していく必要はあると思います。

結構時間もおしてますので、地活協の支援に関する件についてはこれぐらいにしまして、次に区政会議のあり方について、またそれぞれに振りますので、手短にお答え願えたらありがたいと思います。

そうしたら、今度は逆にいきましょか。

板谷さんのほうからお願いします。

### ○板谷委員

漠然とですけど、区政会議はいろいろ規約も決まりがあって、何を言うのかというのが、もう絞られてるといのはまあまあわかってるんですけども、余りにも何か言える幅が狭いというか、そういうふうな会議で、ほとんど確認行為みたいな部分になってるのかなという感じもするんです。だから、区政会議の趣旨と違う、多分違うと思うんですけど、何かもうちょっと前段階というか、企画段階みたいなレベルのところでの話が、できないのかなというふうに常々思うんですけど、でも規約と内容を読むと、もうこれはこういう会議なのかなということで、ある意味しょうがないという部分もあるんですけど、何か自由度がない、発言の幅がない会議であるというふうに感じています。

### ○小澤議長



はい、ありがとうございます。区政会議の位置づけというのが、我々も理解できていない部分もあって、区長が思うところと我々が期待する部分は、ずれてるような気がしますので、我々が何のためにここに座ってるかということ、明確にしていく必要があると思います。

○板谷委員

結局、行政サイドが質問1つしても、ある意味できませんわとか、今後検討しますとか、お役所的に固めて物すごい力入って時間使って回答つくってくれてはるなというのはすごくわかるんですけど、何かそうじゃなくて、そういうところに余力入れないで、もうちょっと我々に言わせてよみたいなところがあるんですが。

○小澤議長

続きまして、浅野さんお願いします。

○浅野委員

先ほども言いましたけども、内容がよくわかっておりませんので、何を言っているのかというのが、まだわかっておりませんが、単純なことでもいいですか。

○小澤議長

はい、いいです。

○浅野委員

この会議の時間なんですけども、基本1時間というんか。

○小澤議長

2時間です。

○浅野委員

うん。まあ1時間程度にしてほしいと。議事内容によっては、2時間の延長も結構ですけど。そうできないものかなと、思っているんですけどね。

○西政策企画課長

できないことはないです。ただ、ちょっと感触として、ちょっと。

○浅野委員

内容が薄くなるということかね。

○小澤議長

地活協の話だけでも1時間以上。

○西尾委員

何か行政さんのこの説明を聞いてると、結構時間とりますよね。ですので、やっぱりそれぐらいの時間になっちゃうんじゃないでしょうかね。

○浅野委員

2時間もそういうことですか。

○西政策企画課長

ただそこもちょっと我々も反省材料、我々の説明もちょっと冗長なところがそれはあって、それは毎回毎回我々も反省しつつ、今まで試行錯誤を繰り返して。

○浅野委員

次の日に仕事の人もいてはるやろし、早く家に帰りたいと、そういう人もいてると思いますので。

○西政策企画課長

ちょっと2時間ぐらいがまあまあ適当なのかなという感じでやらしていただけてます。

○小澤議長

はい、わかりました。続きまして、西尾さんお願いします。

○西尾委員

私はいつも思うのですが、質問をしたら会議の前に質問のことについてお電話があったりして、その会議のときに質問内容は、答えがもう出てしまってるから、もうちょっと皆さんと一緒に質問して語り合いたいないつも思うんですけどね。何となく区役所のお返事を聞いて、ああ、これで納得しなさいということかなと思ったら、

ちょっと悲しくなります。

以上でございます。

**○小澤議長**

続きまして、田中さんお願いします。

**○田中委員**

私もちょっと出させていたideてるんですけど、最初に比べると、だんだん説明とか方針、いろんな何かポイント絞っていただideてるのは、私はいいかなと思てるんです。資料つくられるのも大変でしょうし、必要だと思てるんですけど、もう少し簡潔にいただideたらわかりやすいかなど。こないだなんかは結構ポイントで絞って言ていただideたから、ポイントを絞っていただideて説明していただideたほうが、ちょっとわかりやすいかなど、私単純に一主婦として思てます。

**○小澤議長**

そうしたら、久本さん、お願いします。

**○久本委員**

僕はもう前回も言たけど、本当に発表会的な会議やたらやめたらってのが基本です。前回も言た話が、こないだの全体会議の中で各部会の報告あつたけど、そこにもちょっときつめの言葉で、私らのことも全体には報告されないし、こないだ時間的なものもうちょっと僕見てたけど、6時半に始めますとって始まってから各部局の人みんな説明し終わって、ずっと話聞いて、その話終わったのが7時45分。それから8時半で終ります言うて、1時間以上同じ人らが話していることが何になるの。だから、先ほど浅野さんが言てはつたとおりに、1時間で終わらすんやたら、原則ここにも書いてあるとおりに、2週間前までに会議資料配付しますってなっているなら、そなん読み上げることないやんかと、ただの時間の無駄。それに対して、部会とその全体の報告もあるわけ。実際に今度委員さんなり話ししてもらうときに、嘉悦会長が口開いたのはそれから出して、もう10分前にはしめましょ言うて、30

分もあれへんやん。話す時間。何のためのものっていうのと、これが昔からあったものじゃなくて、これも平成25年からあるんでしょ。だから、そこにおいても区政会議の位置づけが、地域の人にとってどんだけのもんだという。部会にしといて、今回みたいなその地活協のあり方やったら、区政会議の問題点に絞って話しようと思ったら、今みたいにできるけど、ただ全体でやるときにテーマがでか過ぎるんですよ。発表会やったら要らんって。本当の話。

以上です。

#### ○小澤議長

はい、ありがとうございます。区政会議の課題っていうのか、運営の問題が多いのかな、1つはやっぱり会議の目的を共有できていない。恐らく振興会と社協の集まりと、本来、話し合う内容は、若干違うと思うんですね。その辺を区役所の皆さんと共有できないと、もう幅が広過ぎて、あの資料を見れば、そこで構えてしまう。区役所も説明するのに終始するから、時間的にもなかなかあれだけのボリュームで意見を言うというのは難しい。まあそういう意味で事前に意見を集約するというのをやってるんでしょけど、ただ、あの内容をある程度理解して意見を言える人が、地域にどれだけいてるのかなと疑問に感じるところで、区政会議に何を求めるかということ、もうちょっと考えていく必要があるのかなという気がします。

それと、前も言ったように、ああいう全体会議やったら、しゃべる人は限られます。こういう部会でテーマを絞ってやれば、全員がいろんな意見言えるので、よっぽどそのほうが意見交換もできるし、各地域の状況も理解できると思います。しかしながら、条例で細かく決まっているんでしょ。

#### ○西政策企画課長

そうです。

#### ○小澤議長

だから、その目的ははっきりしてるんですよ。だけど、それを我々理解していない。

その条文も見たことないし、だからその辺をまず共有できないと、正直なところ的外れの質問もしてしまう。やっぱり質問となると、自分の身近な部分で照らし合わせて質問するから、だからそれが区政会議に合うんか、それはひょっとしたら振興会での話し合いの部分かなとかね。ごちゃごちゃになってるから、その辺を明確にしていて、区政会議らしいやっぱり議論してかないと、なかなか難しいんかなと。区役所が資料出すときも、その辺を意識した形の資料にしていく必要があるのかなという気がします。

それと、こういう小さい集まりやけど、やっぱり中身はあると思うんですよ。地域性もあって、いろんな意見も出るし、全く逆の意見も当然出ます。それを聞くということは非常に大事なことで、それを聞いて、我々も自分がこの方向や思っても、全く違う形でやっててもうまくいくんやいうこともわかるし、いろんな情報を得ていくことは可能なんで、その辺も踏まえて、区政会議のあり方、特に全体会議のあり方、この部会の部分も含めて、どう運営していくかということは大事かなと思います。

事務局のほうから何かありましたら。

#### ○西政策企画課長

非常に貴重な御意見いただきましてありがとうございます。いちいち、御指摘いただいているのは、尤ものことかと思えます。我々もつくる資料、いつもこれがお手元にいくと思うんです。この運営方針という、かなり細かい字ばかりで、その冊数もかなり多い。資料4のところにつけさせていただいておりますけども、一応条例で区の、運営方針、予算などを説明する必要がある。対して御意見をいただくいうふうに、これはちょっと非常に分厚い資料で申しわけないです。送らせていただいたあと、当日会議で資料としても提供させていただく。僕ら役人だけでも、これかなり読むのつらい。それで、委員の皆様方からも極力わかっていただきやすいように、この中からポイントを抽出したやつを別途作成させていただいて、そのポイントを調節したそれに基づいて、極力的を絞ったような説明をさせていただくことは心がけております。

ただそれが、今久本委員御指摘、全体会議、実はあれ我々もちょっと説明が余りにも長過ぎたということで、ちょっと反省している、ちょっと運営をまずったかなというような1つの会議やったと思います。その辺、説明の仕方、資料つくるためもさることながら、そこら辺も工夫はしていくべきかなと思っております。

この区政会議のほうのそもそもの目的なんですけども、区政会議委員さん方、地域代表、淀川区でいうたら地域担当18名、あと公募で4名。皆さん方、これ区民の方々代表として、この会議に御参加いただいているということになっております。この運営方針のこれは淀川区の28年度なり、29年度なりにどういうことを取り組んで指示したものですので、ちょっとわかりにくい資料かもしれませんが、これに対して、区民の方々を代表して御意見も頂戴、その御意見に基づいて、我々この運営方針であれば予算のほうでも反映していく、そういう会議であるというふうに考えてはおります。ただ、我々もちょっとまだまだといろいろと試行錯誤を繰り返してるところではあるんですけども、おっしゃってるように説明が一方通行になりがちのところもあるのかもしれない。いかにしてその委員の皆様方から、我々にとって、あるいは区民の方々にとって有益な御意見いただけるような会議にしていくかというのを、ちょっといろいろ我々も考えめぐらしてるところでございます。

先ほど、この部会も活動されたらどうかということで、まあそれはごもっともで、この少人数だからこそ委員の皆様方の話題の意見、言いやすいような場でもあるのかなと、きょうの会議なんかは特に思っております。

また、今回委員の皆様方からどんなテーマで、この部会やりたいかという案を、事前にちょっと意見を募らせていただきました。これも、我々初めての試みでした。今回。今まで部会とか区政会議、事前の会議も含めてですけども、我々役所側から一方通行的にもうテーマを設定して、もう一方的に説明したことに対して、意見をもらうというような、そんなしつらえも多々あったのかと思いますけど、今回はちょっと趣向を変えて、委員の皆様方どこに関心があるのかというのを事前にちょっとお聞き

して、その中からポイントを絞って、テーマを絞って会議を開こうじゃないかということで、ちょっとこれも初めての試みですので、きょうの会議、どんな形で我々迎えるのか、進行がどうなるのかいうのをちょっと手探りの部分もあったんですけども、ただこうテーマを絞ることによって、またこのテーマでの皆様方それぞれ興味関心深いテーマでということもありますので、それなりきょう関心をお持ちになって御参加もいただいていたのかなと思っておりますので、それで忌憚ない有意義な御意見を頂戴できたのではないかというふうに考えております。

また、今浅野委員おっしゃられましたように、区政会議の位置づけが、そもそもこれちょっとこないだかわられたところですので、区政会議、そもそもどういう会議なのかちょっとまだわかりにくいとおっしゃっておられて、それもごもっともかなと思いますので、やっぱりこのメンバーさんがかわったとき、1回区政会議開く前に、区政会議とは何ぞやというレクチャーみたいなものを開かせていただいたこともあります。また、そんなこの区政会議に対する理解を深めていただくような委員さん向けのそういった会合といいますか、会議というか、そういったものもまた考えていきたいなというふうに考えております。ちょっと我々も区政会議のこの位置づけとは、皆様方からこの区政に対して、いかに有益な御意見頂戴するかということに本旨があるというふうに考えておりますので、それをいかにして説明できるかにいろいろちょっとまた考えていきたいと思っておりますので、引き続きいろんな御意見いただければと考えております。よろしく申し上げます。

#### ○小澤議長

いずれにしても、区政会議もこういう部会も一緒なんだけど、言いつ放しの部分であり、決める団体ではないので、区役所からテーマが出て、我々はそれぞれの意見を、それぞれが言っていく。その中で、どれをチョイスする、どれを反映していくっていうのは、区役所の判断なので、我々が要求する場ではないのはわかっております。我々はいろんな地域の話の話を聞きながら、また情報を得ながら、自分の地域で生か

していくという、そういう形であってほしいなと思っております。

さっきちょっと気になってたんですけど、区政モニターアンケートというので、参画しやすい環境が整ってるかということで、感じるという人が36.9%。その辺はいいんだけど、感じない人が32.2%おられて、感じないという中に、どんな意見がありますか。感じる側じゃなしに、感じない人の意見の内容を把握しておられるんですか。

#### ○西政策企画課長

単純に、感じる、感じてないってとってますんで。

#### ○小澤議長

否定してる側の意見を聞けば、また反省もできるし、考えることもできるんじゃないかと思います。

#### ○西政策企画課長

やっぱり区政会議そのものを区民の方、また認知度も低いのかなっていうのもあるうかと思います。「よどマガ！」の今お手元2月号、3ページのほうに区政会議通信ということで、区政会議の開催状況なんかも、この「よどマガ！」に定期的に、我々、載せるようにこれは試みでおるもんです。これボリューム4となっております。4回目。かつてこうして、余り区政会議をこういう形で特集とかしてこなかったんですけども、そういった関心が低い、知られてない部分もあるのかなと。こういう形で、こういう活動もしてるんですよということの広報も努めてはおるところではあります。

#### ○中園総務課長

今回、この表で挙げさせていただいたアンケート結果というのは、区政会議の認知度ではないので、また全然会長おっしゃってる内容も別の話やと思うんです。やはりその地域に対して、やはり何らかの形で活動してたり、何らかのこういうイベントに参加してたりという人よりも、圧倒的に参加されてない方がやっぱり多いので、本当に一部の方の意見だけ無作為抽出で聞きますので、やっぱりどうしても、もう盆踊り



とかそういうのに参加してる人は行けば楽しかったなということで、地域一体変わるやんって思われるかもしれませんが、でもどんなに多くても、その地域のやっぱり2日やっても1,000人ぐらいしか集まりませんよね。だから、北中さんなんかやったら、1万3,000人ぐらいいらっしゃる中で、ほんの1,000人。その中で何人の方がこのアンケートの対象になるのかと考えると、こういう結果というのもいたし方ないところかなという。

#### ○西尾委員

隣に誰が住んでるかもわからない人もいっぱいいらっしゃいますよね。本当におつき合いなさってない方だったら。

#### ○中園総務課長

かといって、それで放置してはいかんというところは自覚はしているところなんですけど、ただそのところどうして、というところがやっぱりなかなか決めてがないというのが実際で。昔みたいに、本当にみんな町会に入っておられてというのがあったらあれでしょうけど、今はもう町会の加入率が50%切ろうかというような状況の中で、やはり地域という意識が希薄化してきてる可能性もあると思います。

#### ○小澤議長

いずれにしても、別にパーセントを気にしてるわけじゃなく、肝心なのは中身で、我々気がつかない部分で、いろいろな問題があるんやったら、それは把握して、解決していく必要があるので、逆に感じるというよりも感じない人の意見を知りたいだけで、別にパーセントはどちらでもいいんですよ。我々やってて気づかないことも多々あるので、その辺がわかればありがたいなと思って、それでお聞きしたんですけど。

一応一通り意見をお聞きしましたが、区政会議について何かございますか。

#### ○中園総務課長

先ほど久本委員がおっしゃったように、2週間前に資料渡してるから、まあまあ詳しい説明は要らないよというところが、私どもとしたら資料渡してますけども、じゃ

あ資料、皆さん読んでますから大丈夫ですよっていうのはちょっと言いづらいところがあるんですけど、そこら辺はどうなんでしょうね。ほんまにその進め方でもいいんですかね。

#### ○久本委員

僕は逆に、もう大人の世界やったら、もらって目通ししてくるのがふつうでしょって、会議と名のつくところに出てくるんやったらね。それでわからなかったら、わからんでそのときに聞けばいいやん。

#### ○西尾委員

質問しようと思うときは、それを資料読まないで質問できませんもんね。この質問って、だからそれは読みますよ。やっぱり。

#### ○久本委員

言うてたその7時45分までしゃべってたというのは、あの資料が棒読みやったからなおさら言うんですよ。ほなその資料の中で、例えば1つの項目を流して、これについて何ページのここに書いてあることでこんなになってますけどって、検証的なものがあればわかるけど、読んでやった人みんな棒読みやから。そやから、棒読みやったらもう発表会やから要らんっていうんです。

#### ○中園総務課長

私らのほうでも、そこら辺のところは発表するならそうやってめり張りつけろという、そういう話ですね。

#### ○久本委員

そういうことです。要はそういうこと。発表会やったら、発表会にしたらいいいやんと。そやから、この区政会議という立場のものでやるのであれば、会議になってるの。周りが会議になってるって思ってるのやったら、そらおたくらの自己満足でいいじゃないというような話になってしまうよ。誰も委員として座ってる人らと思ってるんちゃうんかなと。あんだけの2時間の時間をかける中で、どんだけ考えてやってはん

のって。それでも、仕事でもそうやけど、会議なんか30分あったらええやんけ言うて。

○中園総務課長

おっしゃるとおりです。

○久本委員

でしょ。その会議に出てくるときに、皆向くとこ一緒なんやから、それぐらい先やってこいや。おまえらプロやろと、僕ら言うからね。出てくる以上は。それが時間の無駄なんだって、もうきつい言い方やけど、僕らそない言うてますから。

○中園総務課長

若干セレモニー化してるところもございますし。

○小澤議長

その辺になってきたら、それぞれ区政会議に対する考え方が違うところがあるので、事前の説明会のときに区政会議の委員たる者は、資料に必ず目を通してきてくださいよと徹底する必要があるんでね。

○久本委員

その委員の選定からね。やっぱり考えていかないといけないのじゃないですか。

○小澤議長

何もなしにやったら、事前に読む人がどれだけいてるんかなという気がします。

○久本委員

それと、そういうふうにやったっていう既成事実だけあればいいような会議なんかってなってしまうので、だから、さっきも言ったその第4条にある地域団体の選出する委員いうて、一応地活協の会長か地活協の協議会から委員候補で推薦を書いてあるんねんから、じゃあ選ぶほうかって選べる人をちゃんと出しておいでって。だから、外の部分、さっき小澤さんも言ってはった、やっぱり議題として話して、これはほんまの市民との問題ちゃうのという、そう思っってはるのはみんなその一緒やと思う。う

ちらでも前に来てはった人らに言うたら、自分らの地域のこと言うてきたらいいねんって言いはるわけで、違うやろ、区政会議は。だから、地域も言いたいことは言いたいことで、また別の場所があって話すところでしょという。実際に行った人がそう勘違いしてはる人もおるねん。そしたら、あんまり時間とか割いてやるなら、行かんでええわ言うて、僕ははっきり言ったんです。

○小澤議長

区政会議として何を求めているのか、何を議論するのか、どういう意見を聞きたいのかということを確認にし、ピント合わせていったほうがいいと思います。

○中園総務課長

1年間の目標について御意見をというようなやり方を今やってるんですけど、そうになると本当に総花的で、もうだらだらとした話になっちゃうというのも、これもう確かかやと思うんですよ。でも、運営方針というのは、やっぱり区の方角性になりますので、この分時間をとらざるを得ないけど。それがちょっと量が多いというのも確かなんです。

○小澤議長

いや、それは求めているボリュームが余りにも大き過ぎるから、それをそのとおりにされても、我々としてはなかなかそれについていきにくいし、対応もできないんで、結果として地域の何か身近な部分で物言うてしまうことになってしまうから、その辺を何らかの形でかみ合わせていかないと、それこそ無駄な時間、無駄な議論ということになるし。

○中園総務課長

はい。

○久本委員

区政会議というのは、予算の執行とか、その決定権というのは別にはないですよ。ただの報告会なんですよ。区政の。

○西政策企画課長

報告というか、そもそも御意見をもらうという。決定する機関ではないです。

○小澤議長

議会というのは淀川区には存在しないわけで、全て区役所が決めて、意見を聞くぐらひの話で、決める部分で地域の意見がある程度反映しながら決めていく、そういう集まり、それがひょっとしたら、終局的には地活協会長会議になるのかなという気はせんでもないけど。どういう形にしていくかということは、これから区役所も考えていく必要があると思います。ただ、この区政会議については意見言うだけで、端的に言うたら、区役所の諮問機関です。そのレベルの話なので、今後民主的に進めていく上において、区民の意見を反映する部分で、どうしていったらいいかということは、根本的に考えていかなければならないと思います。

時間ももうそろそろ迫っております。それぞれの思いで自由な形で意見を言っていたのですが、聞き流したらいい話もあるし、またとどめていただいて、十分参考になる意見もたくさんあったと思います。今後地域活動協議会が本当に地域にとってすばらしい組織になるように、一緒になって考えていけたらと思いますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

最後に今後のこの部会も含めて、区政会議の、スケジュールについてわかってたらお願ひします。

○西政策企画課長

第3回の全体の会議を3月の下旬に、開きたいと考えております。

また日程調整させていただいて、また決まりましたら速やかに御連絡さしあげると思っております。

○小澤議長

今のところそれだけです。

○西政策企画課長

いまのところそれだけです。

○西政策企画課長

どうも皆様方、長時間にわたりましてありがとうございました。

先ほど申しました第3回の全体会議のほうで本日の内容、また議長から報告いただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。もう時間が過ぎておりますので、このあたりで淀川区区政会議コミュニティ力向上部会、終了してまいりたいと思います。

本日は、どうも長時間にわたりましてありがとうございました。

—了—